

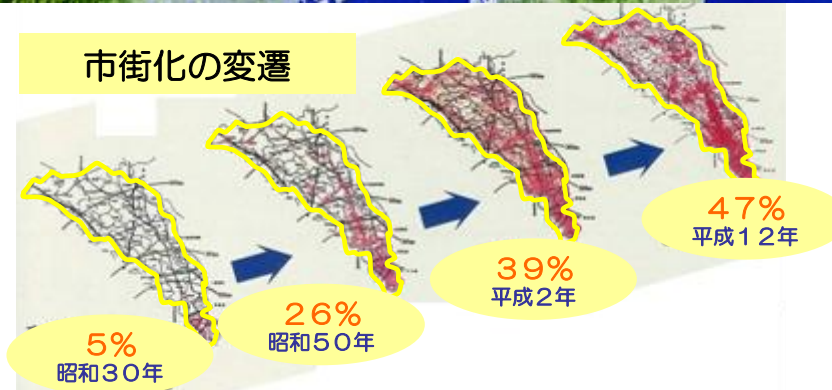
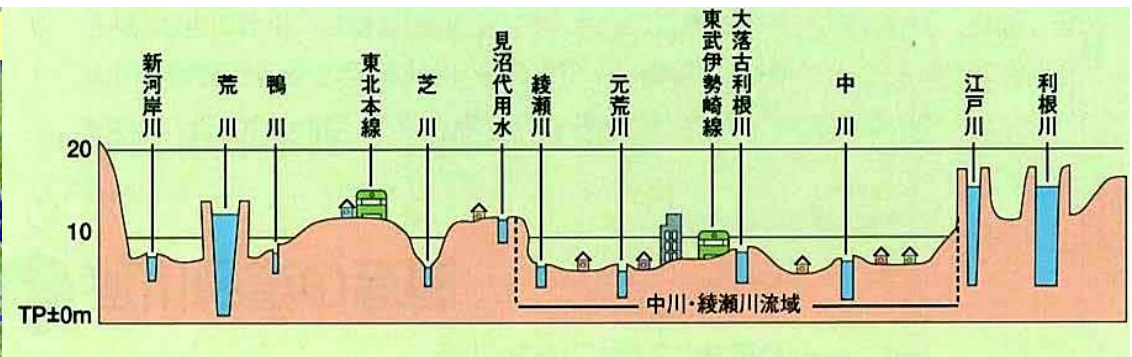
武蔵水路による浸水被害の軽減

(1/3)

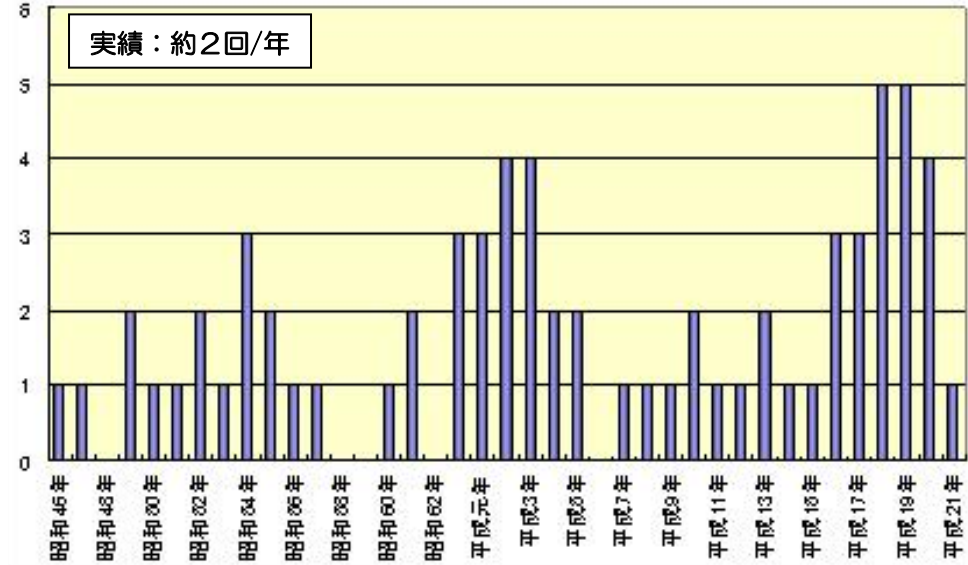
◎周辺地形の特徴と浸水被害軽減に向けた武蔵水路の対応実績

武蔵水路が位置する中川・綾瀬川流域は、周辺の大きな河川(利根川、江戸川、荒川)よりも低い鍋底型の低平地で水が溜まりやすく、市街化が進んだこともあり、ほぼ毎年のように浸水被害のおそれのある状況が発生しています。

これに対して、武蔵水路を活用した浸水被害軽減への対応を図ってきました。



武蔵水路による内水排除実績 (69回 : S46~H21)



武蔵水路による浸水被害の軽減

(2/3)

◎治水計画と改築事業の内容

武蔵水路改築事業では、流域内の浸水被害の軽減を図るため、治水対策を事業の目的に位置付け、排水施設の追加や排水能力の増強を行うほか、改築後は機構で施設を一元管理し、管理所から各施設を遠隔操作することで迅速な排水を行うなど、浸水被害の軽減に向けた対策の確保・強化を図ります。

【治水計画】

- ・ 武蔵水路改築での治水計画は、「武蔵水路改築事業に関する事業実施計画」に基づき実施
- ・ 概ね10年に1回程度発生する規模の降雨時に対して十分な排水が可能となるよう整備

○排水施設の追加

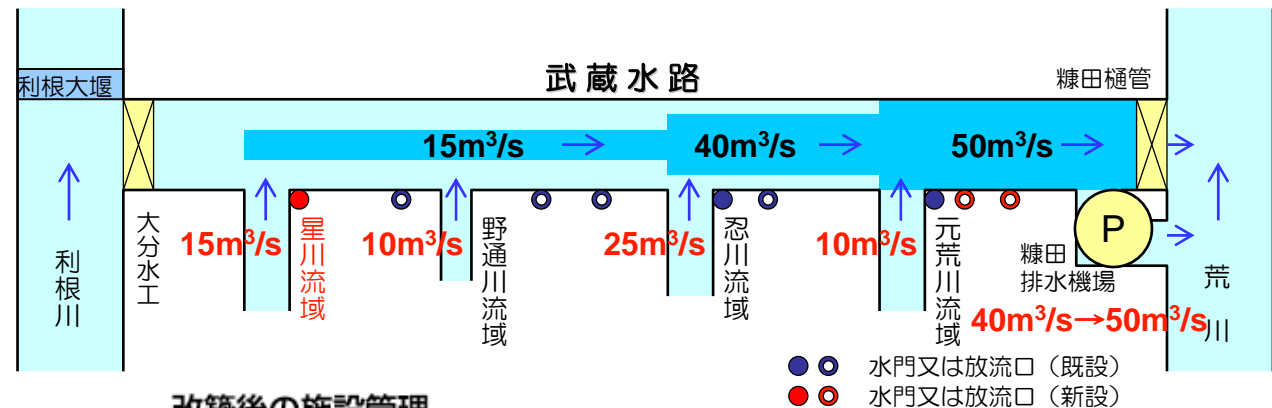
星川水門（行田市市内）及び放流口
2箇所（鴻巣市内）を新たに設置
（現在）水門2箇所、放流口4箇所
（改築後）水門3箇所、放流口6箇所

○排水能力の増強

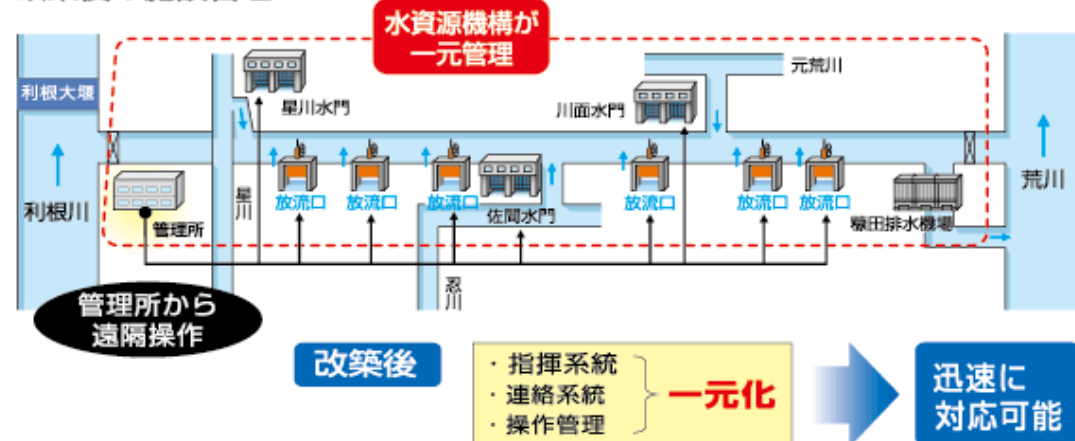
水路では洪水処理能力を $50\text{m}^3/\text{s}$
に強化、糠田排水機場の排水能力
も増強（ $40\text{m}^3/\text{s} \rightarrow 50\text{m}^3/\text{s}$ ）

○改築後は一元管理

改築後は、水門・放流口・排水機場等の
施設を機構が一元管理し、局地的な豪雨
などにも迅速に対応



改築後の施設管理



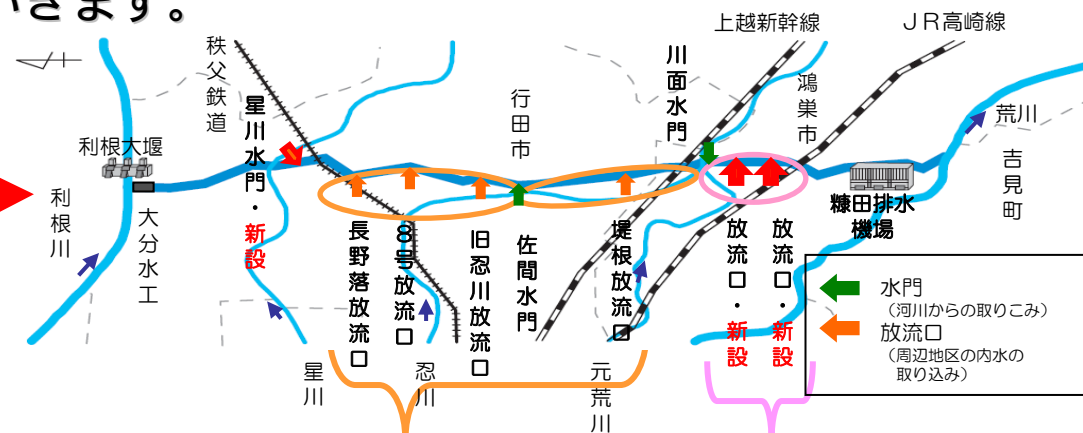
武蔵水路による浸水被害の軽減

(3/3)

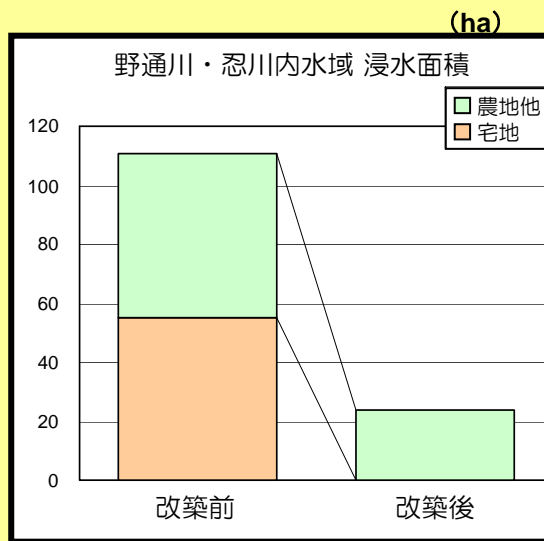
◎武蔵水路改築後の浸水被害の軽減効果

改築事業により、10年に1度程度の確率で発生する降雨に対し、**水路周辺の宅地浸水被害は解消**されることとなります。

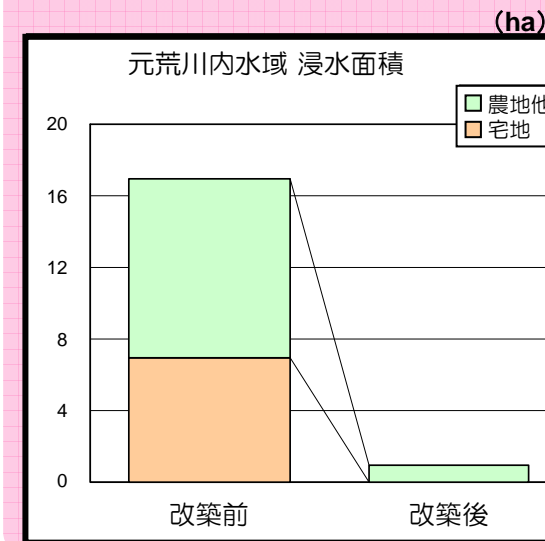
また、これとは異なる降雨等があった際にも、迅速な施設操作を行うことで、水路周辺地域の浸水被害の軽減を図っていきます。



改築後は、野通川、忍川内水流域で約80%の浸水被害を軽減



改築後は、元荒川内水流域で約90%の浸水被害を軽減



【検討条件】
 計画降雨 (中川・綾瀬川流域)
 S33. 9熊谷型降雨をベース
 217mm/48hr
 時間最大 26.6mm/h
 河道条件
 計画雨量に対する施設完成後